

2025年度 物流システム機器生産出荷統計

2026年9月



物流システム機器生産出荷統計調査委員会・委員名簿

(2026年9月現在、敬称略、社名五十音順)

委員長	吉本 一穂	早稲田大学 名誉教授
副委員長	石山 敏彦	村田機械(株) 常勤顧問
委員	今村 壮吉	(株)IHI 物流産業システム 総務部 総務グループ長
委員	石原 智裕	オークラ輸送機(株) 営業企画室
委員	戸田 典亜	(株)オカムラ 物流システム事業本部 事業戦略部 部長
委員	芝田 雅也	三機工業(株) 機械システム事業部 プロダクトイノベーション部 上席技師
委員	上中 直哉	住友重機械搬送システム(株) 物流パーキング統括部 物流システム営業部 課長代理
委員	清水 慎一	西部電機(株) マテハン事業部 営業部 部長
委員	三浦 洋	第一工業(株) 搬送事業 搬送システム 営業部 営業グループ
委員	高光 巧一	(株)ダイフク 広報部 参与
委員	戸部 功介	(株)タクテック LE部・部長
委員	井口 俊	(株)椿本チエイン マテハン事業統括 企画管理部 企画管理課 参事
委員	國友 宏俊	トーヨーカネツ(株) 理事 ソリューション事業本部
委員	長谷川 昌平	(株)豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー 国内営業部 営業企画室 ・ 室長

事務局：公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所

I. 統計の目的

物流システム機器は生産や流通の効率化、高付加価値化に重要な役割を果たしており、我が国経済の発展のためにもその発展と成長が期待されている。そのためには、関係する企業が適切な経営判断を行えるよう、物流システム機器についての定量的で継続性のあるデータが不可欠である。

このようなことから、物流システム機器の生産出荷状況を定量的かつ継続的に把握することを目的として、標記の調査を実施するものである。なお、本調査は「物流システム機器推進部会」（旧：物流システム機器懇談会）が1985年度から実施している統計を実質的に継承しているが、2007年度調査より新たに調査委員会を設置し、一般社団法人日本物流システム機器協会・統計部会の協力を得て、調査内容の検討・分析を行っている。

II. 調査対象と期間

国内主要物流システム機器メーカを対象とし、2025年4月から2026年3月までの実績を調査集計したものである。

業種別調査は、調査対象25機種について、機種別に売上件数ベースで主要出荷先上位10業種を選択し、金額構成比を記入する方式としている。各社の各機種の売上金額に金額構成比を乗じて、各機種および小計別に、売上金額の上位10業種および金額のトータルを、グラフにまとめている。

97年度よりフォークリフト等、産業車両分野は一般社団法人日本産業車両協会の調査による統計を別枠で発表している。また、2006年度より、一般社団法人日本パレット協会が調査を実施しているパレット（木製パレット・金属製パレット・プラスチック製パレット・シートパレット・紙製パレットの合計）の生産数量および出荷額をあわせて別枠で掲載している。

2025年度フォークリフトは国内販売実績77,155台で、国内販売向け金額は2,515億9,500万円である。輸出販売実績は27,332台である（一般社団法人日本産業車両協会において、輸出向け販売金額は現在調査していない）。

2025年度パレットは、生産数量が前年比8.9%増加の6,020万枚で、出荷額は1,841億円となっている。

なお、本報告書では、調査回答内容の再確認・精査を行い、確認・修正後の数値を掲載している。そのため、2024年度の数値は前年度報告書と異なる場合がある。

1. アンケート実施状況

- ・実施日程：2026年4月28日発送～6月12日〆切

2. 調査範囲

- ・製造業における組立ライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等通常の物流領域以外への出荷を含める（自動車の製造ラインも含む）。
- ・増設・改造等(工事を伴うサービス業務)についても、出荷データに含める。

・クリーンルーム向けを含む（クリーンルームの定義は次項参照）。

※増設は、基数、件数、売上金額を含む。

※改造は、売上金額のみ計上し基数、件数は含まない。

3. クリーンルームの定義

1) クラス10,000以下

2) 該当業種：半導体、FPD関係、太陽電池、HDD、メディアなど

3) 医療・食品業界向けは、クリーンルーム向け販売には含めず、エンドユーザーと売買したものに含める（一般物流とする）

4. 調査範囲について

2003年度（調査対象年）より、機器メーカー各社で取扱高が増えたクリーンルーム向けの調査を開始しているが、2004年度までの定義は「クラス10,000以下で半導体を除く」としていた。また、調査範囲を2005年度（調査対象年）より変更しており、2004年度までは「製造業における組み立てライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等、通常の物流領域以外への出荷は含まない」としていた。また、2007年度まではパレットおよびロールボックスパレットを調査対象に含めていた。

Ⅲ. 調査対象機種

2020年度調査より、6「無軌道台車システム」の仕様によって項目を細分化し、6-1 無軌道台車システム（パレット）、および6-2 無軌道台車システム（パレット以外）とした。また2023年度調査より、1～5、7、10、17の対象機種内容の記載を、一部見直している。

図表1 調査対象機種

1・2	パレット用自動倉庫 (ビル式・ユニット式)	・一般的にパレット積みされユニット化された荷を、多段高層の棚及びスタッカークレーン等を使用して自動的に搬入・搬送・搬出できる保管庫をいう。 ・また、荷を直接ハンドリングするパレットレスのものも含む（ビール樽、新聞用紙など）。
3	バケット用自動倉庫 (ユニット式)	・一般的に、通箱、バケット、カートンを単位としたものを対象とし、スタッカークレーンやシャトル等を使用して自動的に搬入・搬送・搬出できる保管庫をいう。 ・仕分け・ピッキング等の機能を有する保管庫も含む。
4	天井走行台車	・天井から吊下げられた軌道上を、内蔵または外付けの駆動で、キャリアまたは台車に積載した物品を搬送するシステム。 ・基数は、キャリアまたは台車の数量とする。

		・金額には、軌道・制御装置・安全網・サブ材を含む。
5	有軌道台車システム	・地上に設置された軌道上を、内蔵または外付けの駆動で、台車に積載した物品を搬送するシステム。 ・基数は台車の数量とする。 ・金額には軌道・制御装置・付属装置を含む。
6-1	無軌道台車システム (パレット)	・各種センサーにより誘導される無人搬送台車のうち、パレットの積載が可能なもの。 ・基数は台車の数量とする。金額には制御装置を含む。
6-2	無軌道台車システム (パレット以外)	・各種センサーにより誘導される無人搬送台車のうち、パレット以外の積載が可能なもの。 ・基数は台車の数量とする。金額には制御装置を含む。
7	仕分機	・自動にて荷の仕分けを行うもの。 ・構成範囲はインダクション部（誘導部、商品投入部）からソータ本体、仕分けシュートまで（リサークルラインはケース搬送用コンベヤとする）。 ※仕分け・ピッキング等の機能を有する保管庫は、「3バケット用自動倉庫」に含む。 ・基数は、台数とする。
8	パレット搬送用 コンベヤ	・パレットを被搬送物とするコンベヤ。 ・対象範囲：パレットを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。
9	ケース搬送用 コンベヤ	・バケット及びカートンケースを対象としたコンベヤ。ただし、石炭、鉱石、泥等のバルクを搬送するものは除く。 ・対象範囲：ケースを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。
10	ハンガー式コンベヤ	・天井から吊下げられた軌道上を、チェーンの牽引でハンガーに積載した物品を搬送するシステム。 ・金額には、制御装置・安全網・サブ材を含む。
11	デジタルピッキング 表示器	・コンピュータの指示によりピッキングする品物の位置と数量を表示する装置。 ・対象範囲：表示器を取り付けている流動棚、中軽量棚、コンベヤは含まない。ただし、回転棚に取り付けているピッキング表示器は回転棚に含む（バーチカル・水平ととも）。 ・制御関係は本体制御を含み、指示するコンピュータはコンピュータに集計する。
12	ピッキング台車	・ピッキングする品物の位置と数量を表示する装置を取り付けているピッキング用の台車。 ・対象範囲：ピッキング台車本体及びコンソールと、付属する部品（充電器等）も含む。

13・14	回転棚 (垂直式・水平式)	・荷の軽重、制御レベルを問わない。垂直、水平両方式の回転する棚。 ・基数は、台数とする。
15・16	移動棚 (電動式・手動式)	・電動、手動にて移動する機構を備えた棚。 ・基数は、台数とする。
17	重量棚	・パレット単位のユニットロードを格納する棚で、1棚あたりの重量が約500kgを超えるもの(ネスティングパレットを含む)。
18	中軽量棚	・カートン単位、またはバケット単位などを格納する棚で、1棚あたりの重量が約500kg以下のもの。
19	流動棚	・カートン単位またはバケット単位のことを、傾斜の付いた棚に置き、前面での取り出しを容易にさせたもの。
20	パレタイザ／ デパレタイザ	・バケット、カートンケース、袋物等の物品を自動にてパレット上に整列集積（或いは分離）する装置。 ・機械式、ロボット式のいずれの方式も含む。
21	パレット搬送用垂直 搬送機	・複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置(パレットを被搬送物とする)。 ・ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。
22	ケース・ピース搬送 用垂直搬送機	・複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置（バケット及びカートンケースを対象とする）。 ・ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。
23・24	コンピュータ (ハード・ソフト)	・物流機器の情報処理と在庫監視を同期化して行うコンピュータシステムのハード・ソフト。
25	WMS	・物流センター・倉庫等で入荷から出荷までの一連の作業を支援するコンピュータシステム(ハード・ソフト)。 ・対象範囲：物流設備の有無、物流設備との接続の有無を問わない。なお、顧客向けのカスタマイズ、改修等の諸費用を含む。
26	その他	・以上1～25の分類に該当しないもの。

IV. 調査事項

前項であげた各々の機種につき、A売上件数、B基数、C総売上金額、D海外向金額を調査しており、数値の重複を避けるため、以下の区分で調査を行なっている。

M：同業他社向けに売買したもの

U1：エンドユーザー、商社などと売買したもの

U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの

C：クリーンルーム向けに売買したもの

C総売上金額、D海外向金額の数値はいずれも売上ベースであり、売上件数に対応する据付、調整工事を含む全金額とする。ビル式の場合には土木、建築工事の金額を含むものとする（建築の範囲：ラックに付属する屋根・壁）。D海外向金額はC総売上金額の内数である。

なお、売上件数については、例えば同一顧客企業に2回以上納品した場合、部品だけを納品した場合等、回答企業によりカウントの方法が異なる回答が含まれている可能性があり、注意が必要である。

業種別調査は、売上金額を出荷先業種別に調査したものである。業種別調査は、下記の業種分類により調査を行っている。ただし、業種別調査は出荷先上位10業種のための調査であることに加え、業種別の回答が得られない企業があることから、業種別売上高の総計が総売上金額に一致しない場合がある。

図表2 業種調査の業種分類

業種分類	大分類	業種分類	大分類
1 建設	8 その他	19-1 小売業	5 卸・小売
2 食料品製造	3 食品・医薬等	19-2 通信販売	
3 繊維・衣服	4 その他製造	20 自動車販売	8 その他
4 パルプ・紙加工		21 自動車整備サービス	
5 出版・印刷		22 サービス業	
6 化学		23 倉庫業	6 倉庫・運輸
7 医薬・化粧品・塗料	3 食品・医薬等	24 陸運	
8 石油・ゴム製品	4 その他製造	25 海運	
9 ガラス・窯業・土石製品		26 空運	
10 鉄鋼		27 鉄道	
11 非鉄・金属製品		28 通信	8 その他
12 一般機械器具		29 電気・ガス・水道	
13 電気機械器具	1 電機・精密機器	30 官庁・学校	7 官庁・図書館等
14 自動車/輸送用機械器具	2 輸送機器・部品	31 団体・組合(JA等)	
15 精密機械器具	1 電機・精密機器	32 ホテル	8 その他
16 自動車部品製造	2 輸送機器・部品	33 病院	7 官庁・図書館等
17 その他製造	4 その他製造	34 図書館	
18 卸売業(商社含)	5 卸・小売	35 その他	8 その他

V. 全体の推移

集計の結果、2025年度の物流システム機器の総売上金額は、2024年度の665,033百万円から690,707百万円へと増加（3.9%）となった（図表3）。また、売上件数は2024年度の133,532件から139,219件へと増加した。

※2024年度の総売上金額は、調査回答内容の再確認・精査に伴い、前年度報告書の657,002百万円から665,033百万円に修正している。

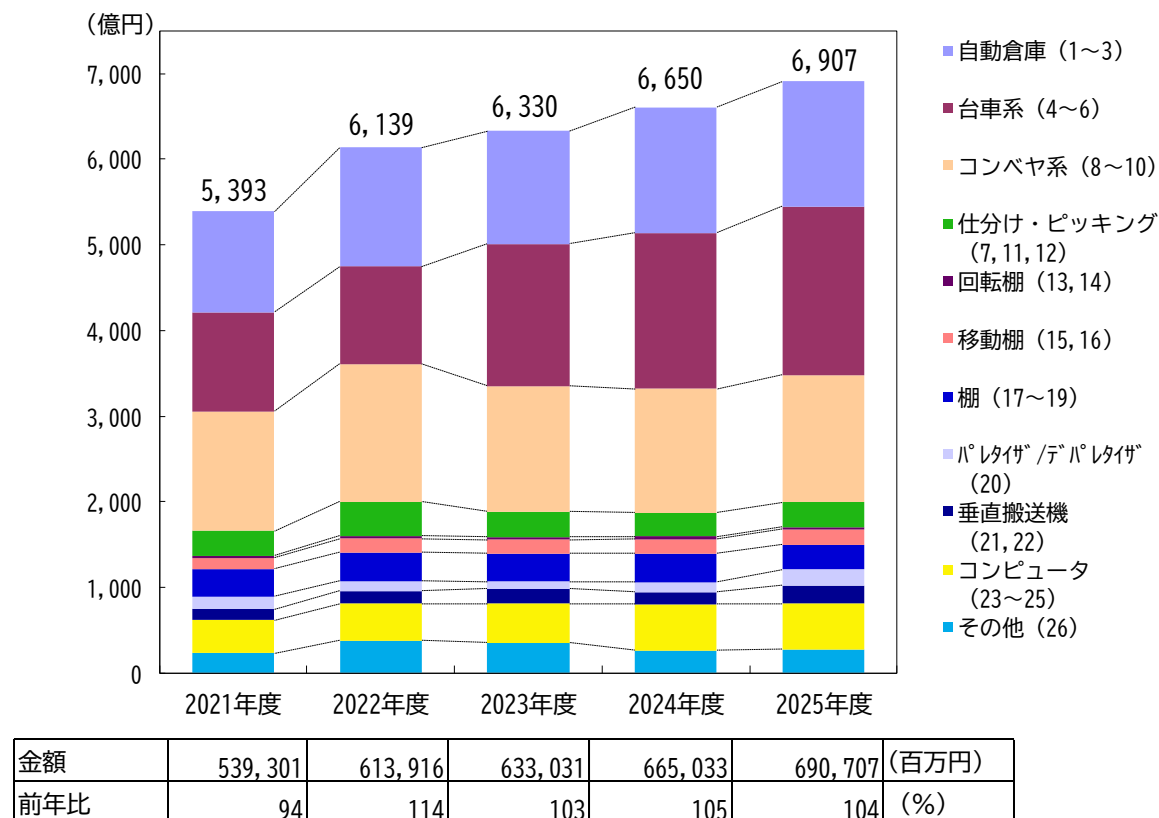
総売上金額は、690,000百万円を超え、過去最高水準となった。これは、引き続き高水準を示す多くの機器の需要に呼応して、メーカ各社により生産、供給がなされた結果と思われる。また売上金額の増加とともに、前年度に引き続き売上件数が増加していることから、多くの機器において需要が増加傾向にあることが推察される。

売上金額を領域別に見ると、海外向けも昨年度より増加した。業種別に見ると、「電機・精密機器」に対する売上の比率が依然として高水準となっている（図表5）。

2013年度調査から業種分類を変更しており、従来「小売業」の内数であった「通信販売」を新たに業種分類として独立させ、調査している。2025年度の「通信販売」の売上金額は12,436百万円であった。この割合は、総売上金額の約2.0%に相当する。

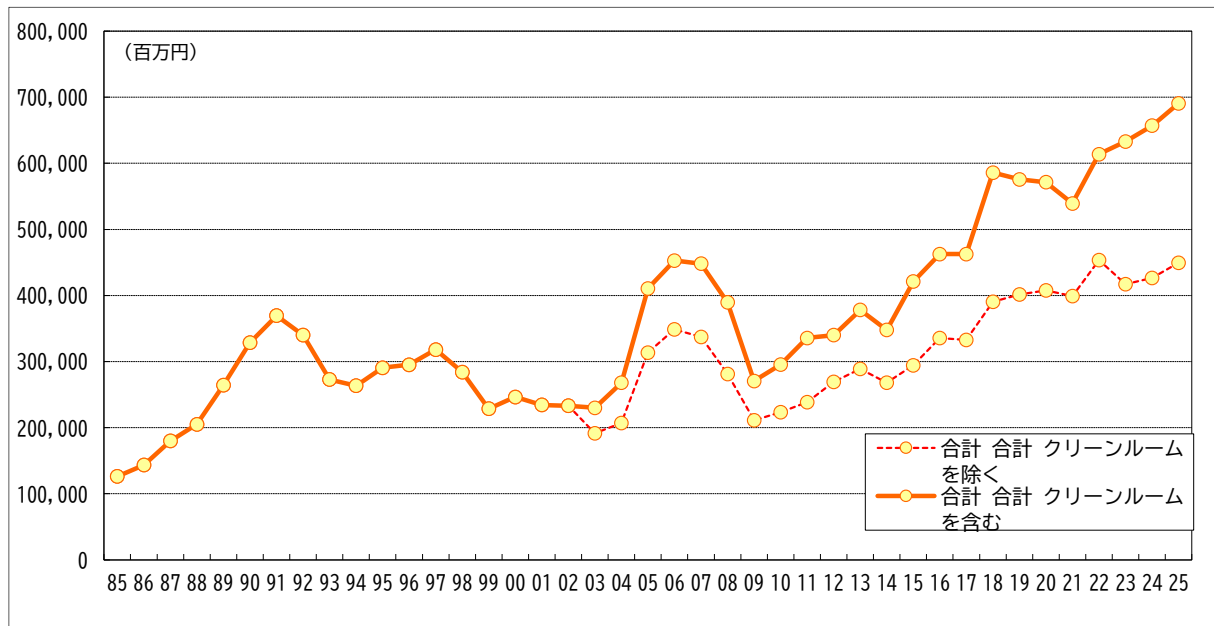
なお、2025年度の調査では、回答企業数が前年度から1社減少している。このため、年度間の比較にあたっては、回答企業数の変動にも留意する必要がある。

図表3 総売上金額の推移



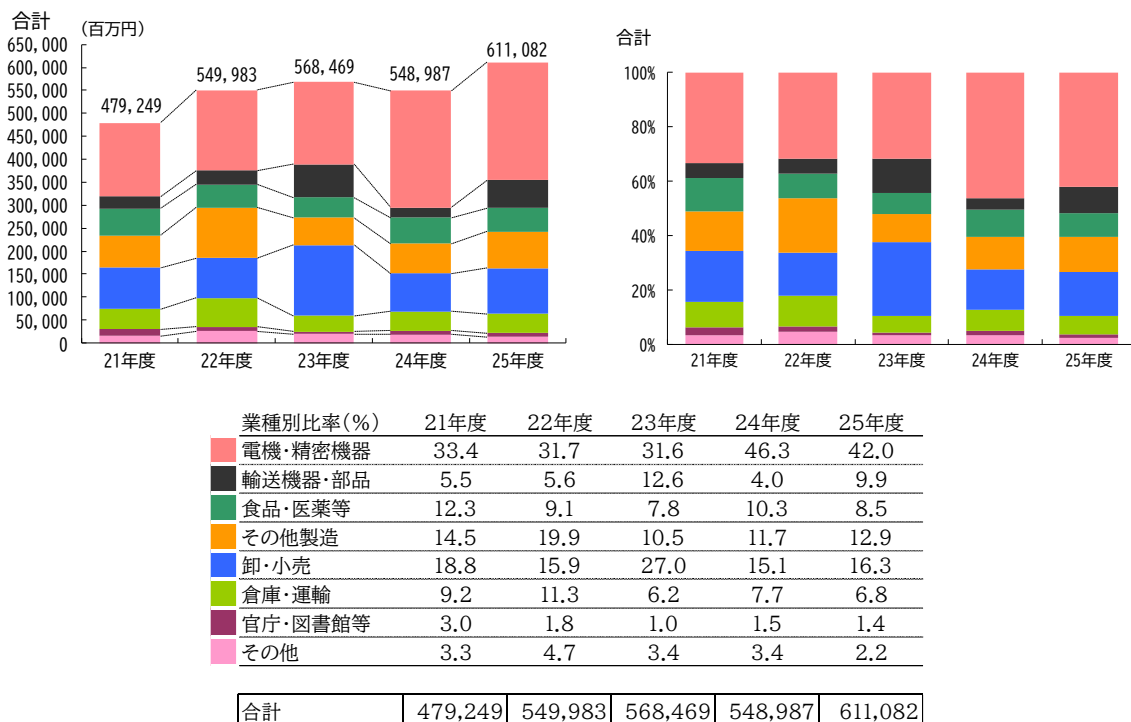
注：凡例の数字は、図表3-1の番号に対応

図表4 物流システム機器の総売上高（長期時系列）



注：2003年度より、クリーンルーム向けを調査対象に加えており、それ以前との比較のため、クリーンルームを除いたグラフも掲載した。図表6-4以降も同様である。
なお、調査範囲はそれ以外にも変更を行っており、Ⅱ.4項を参照のこと。

図表5 業種大分類別売上高の推移
(左：金額ベース／右：構成比)



注1：業種分類については図表2を参照のこと。

注2：売上高の業種別構成比の記入がない回答があるため、総売上金額の合計と一致しない。

VI. 各機種の動向

■自動倉庫（1～3）

自動倉庫全体の売上金額を見ると、前年度の147,098百万円から2025年度は145,870百万円へと減少（△0.8%）した。機種別にみると、バケット用自動倉庫（ユニット式）の売上金額が、79,104百万円から79,928百万円へ微増（1.0%）となった。またクリーンルーム向けについても、前年度の38,493百万円から48,559百万円へ増加（26.2%）する結果となった。

■台車系（4～6）

台車系は、2025年度については、182,039百万円から197,046百万円と増加（8.2%）の推移となった。基数についても、12,818台から15,544台と増加（21.2%）となった。

機種別にみると、天井走行台車が154,463百万円から159,839百万円へと増加（3.4%）しており、有軌道台車システムは9,515百万円から19,774百万円へ増加（107.8%）、また無軌道台車システムは18,061百万円から17,433百万円へ減少（△3.5%）となった。

■コンベヤ系（8～10）

コンベヤ系の売上高は、2025年度については、144,746百万円から148,150百万円へと増加（2.4%）となった。

機種別には、ケース搬送用コンベヤが73,205百万円から79,417百万円へ増加（8.5%）、ハンガー式コンベヤは9,408百万円から17,405百万円へ増加（85.0%）し、パレット搬送用コンベヤについては62,134百万円から51,329百万円へ減少（△17.4%）した。

■仕分け・ピッキング系（7,11,12）

仕分け・ピッキング系について、2025年度は、前年度の27,161百万円から29,423百万円へと増加（8.3%）している。

全体の過半以上は仕分機が占めているなか、仕分機の売上金額は、15,761百万円から16,461百万円へ増加（4.4%）、一方基数については、2,782台から2,921台へと増加（5.0%）の傾向にある。またデジタルピッキング表示器については、売上金額が10,612百万円から11,880百万円へと増加（12.0%）している。

■回転棚・移動棚（13～16）

回転棚・移動棚の2025年度売上高は前年度の20,202百万円から20,044百万円へと微減（△0.8%）した。

機種別にみると、売上金額の大半（88.9%）を移動棚が占めている。移動棚の売上は電動式が12,842百万円から15,312百万円へ増加（19.2%）、手動式は3,982百万円から2,514百万円へと減少（△36.9%）した。さらに、回転棚（垂直式）は940百万円から1,099百万円へと増加（16.9%）し、回転棚（水平式）については、2,441百万円から1,119百万円へと減少（△54.2%）した。

■棚（17～19）

棚は、重量棚、中軽量棚、流動棚の3機種からなる。売上金額は前年度の33,307百万円に対して、2025年度は29,019百万円と減少（△12.9%）した。内訳として、重

量棚が11,773百万円から12,990百万円に増加（10.3%）、中軽量棚は21,023百万円から15,463百万円に減少（△26.4%）、流動棚については511百万円から565百万円へと増加（10.6%）した。

■パレタイザ/デパレタイザ（20）

パレタイザ／デパレタイザの2025年度売上高は、前年度の11,998百万円から19,176百万円へと増加（59.8%）した。また、基数については788台から750台へと減少した。

※2024年度のパレタイザ／デパレタイザの売上金額は、調査回答内容の再確認・精査に伴い、前年度報告書の8,147百万円から11,998百万円に修正している。

■垂直搬送機（21,22）

垂直搬送機は、売上金額が前年度の17,905百万円から21,169百万円へと増加（18.2%）している。

機種別にみると、パレット搬送用垂直搬送機は14,715百万円から16,321百万円に増加（10.9%）し、ケース・ピース搬送用垂直搬送機は3,190百万円から4,848百万円へと増加（52.0%）している。

※2024年度のパレット搬送用垂直搬送機の売上金額は、調査回答内容の再確認・精査に伴い、前年度報告書の10,535百万円から14,715百万円に修正している。

■コンピュータ（23～25）

コンピュータは、物流システム機器の情報処理や在庫管理を行う、一般的に制御系機能を含むコンピュータソフト・ハードと、WMS（倉庫管理システム）からなる。

このうちWMSについては、本統計が主として物流システム機器のメーカ（エンジニアリング会社を含む）を調査対象としており、カバレッジが充分でない。特に、大手情報システムベンダーでは、WMSの機能を含む物流情報システムを個別に開発しているケースが多いと思われるが、上記の理由から本調査ではカバーできていない。

コンピュータ全体の売上金額をみると、2025年度は、前年度の54,083百万円から52,897百万円へと減少（△2.2%）した。機種別に見ると、コンピュータ（ハード）が16,646百万円から17,916百万円増加（7.6%）。また、コンピュータ（ソフト）は32,919百万円から31,215百万円へと減少（△5.2%）した。なお、コンピュータは物流システム機器の制御等に利用されるものが多く、他の機種の出荷傾向に影響を受ける。

VII. 海外の市場動向

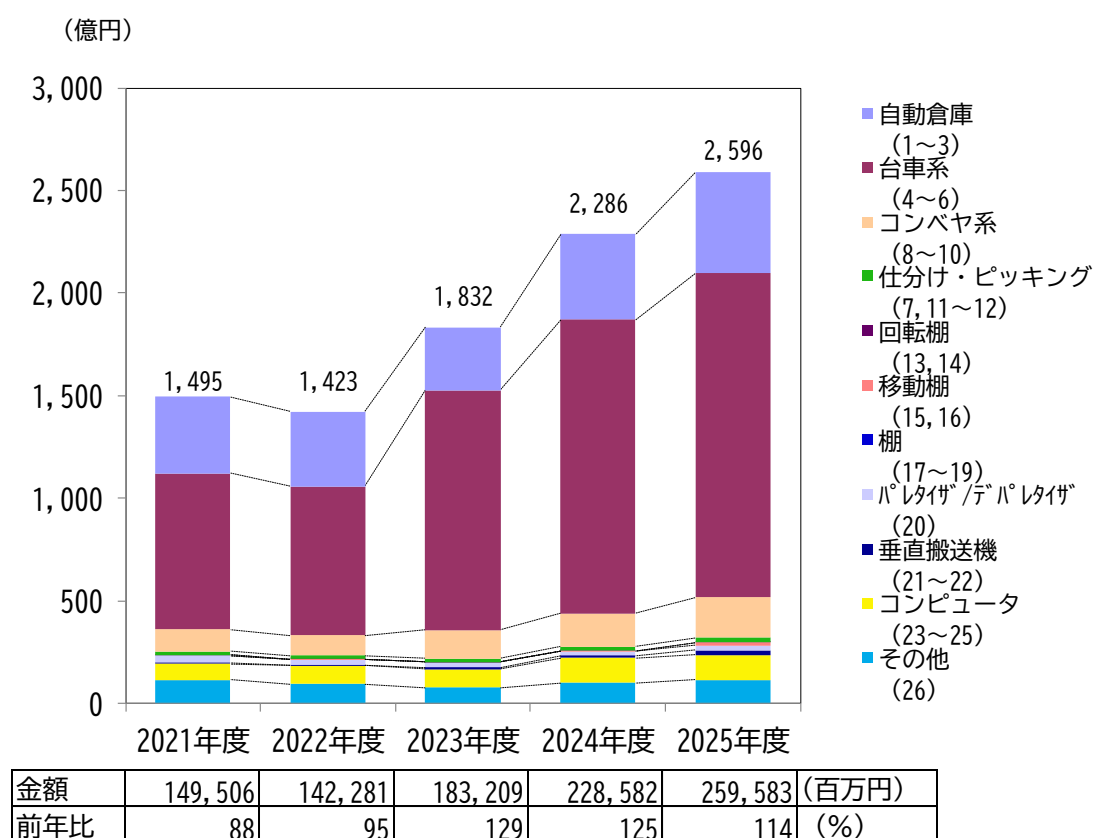
1. 海外への出荷動向

海外向け売上金額は、2024年度の228,582百万円から2025年度は259,583百万円へと増加（13.6％）した。海外向けは従来クリーンルーム向けの割合が高く、その影響を強く受ける傾向がある。これに関し、2025年度については、クリーンルーム向けの海外売上高は190,175百万円から210,602百万円へと増加（10.7％）しており、クリーンルーム以外の売上高については、40,663百万円から48,981百万円へと増加（20.5％）する結果となった。

海外向け売上金額では、台車系が全体の60.9％、自動倉庫が18.9％、コンベヤ系が7.6％を占め、この3機種で8割以上（87.4％）を占める。

この3機種のうち、台車系は142,995百万円から158,078百万円へ増加（10.5％）、自動倉庫は41,580百万円から49,074百万円へ増加（18.0％）、コンベヤ系は16,234百万円から19,662百万円に増加（21.1％）した。

図表6 海外向け売上金額の推移



3. 最後に

以上のとおり、2025年度の総売上金額は、690,000百万円を超える結果となった。

世界的な原材料・製品の価格高騰等、外部環境の変化はロジスティクス・物流分野にも引き続き大きな影響をおよぼしている。本年度調査において、総売上金額が4年連続で増加していることが確認されており、労働力不足への対応に加え、物流関連2法への対応、サプライチェーンの高度化、物流DXの推進などを背景として、物流システム機器への投資需要が引き続き堅調に推移していることを示唆している。

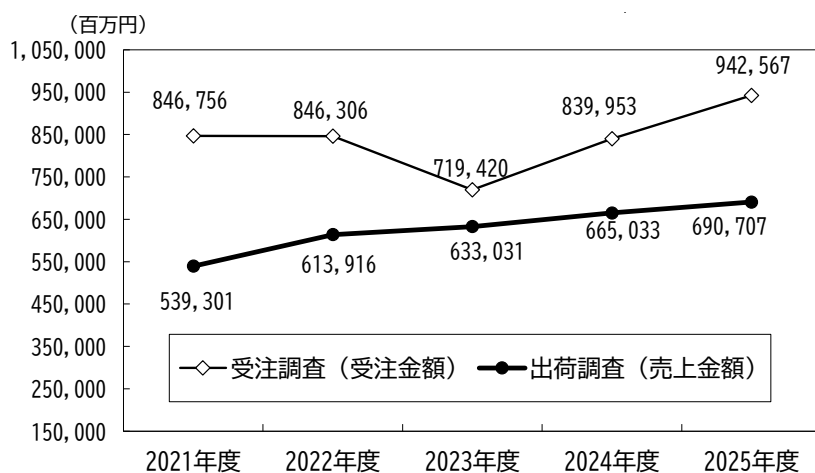
なお、本調査においては、四半期ごとの受注額についても併せて調査を実施している。受注調査においては、売上高ベースで出荷調査対象企業の約85%に相当する企業から回答を得ている。一般に、受注は出荷の先行指標とされているが、2025年度の出荷額は、2024年度の受注金額（839,953百万円）に対し約82.9%の水準となっており、受注と出荷の間には一定の時間差が存在することに加え、大型案件の進捗や納入時期等の影響も考えられるものの、高水準の受注残が継続している可能性が推測される。

また、2025年度の受注金額は約9,425億円と、2024年度と比較すると増加傾向が見られる（図表7）。これをふまえ、今後受注額と出荷額の差異をはじめとした金額の変動については、動向を注視する必要がある。

以上のように、本調査で確認された売上高・受注高の推移は、物流システム機器が物流インフラを支える基盤技術として、その重要性を一層高めていることを示している。今後も、AIやロボティクス、デジタル技術の活用を含む技術革新を推進するとともに、安全性、環境負荷低減、標準化を両立した物流システムの実現を通じて、我が国の物流および産業競争力の向上に貢献していくことが期待される。

図表7 物流システム機器の受注額との比較（参考）

（グラフは、各年度における「売上金額」と「受注金額」を表す。大型の機器等では、受注と売上（出荷）には1年ないしそれ以上のタイムラグが生じる。そのため、受注は売上（出荷）の先行指標となる。）



出典：物流システム機器の受注統計整備に関する調査

※注：本調査の回答企業は、売上高ベースで「出荷統計調査」の85%程度に限られる。

以上

2025年度 物流システム機器 生産出荷統計

M：同業他社と売買したもの

U1：エンドユーザー、商社などと売買したもの

U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの

C：クリーンルーム向けに売買したもの

計：U1+U2+C

設備機器名			A 売上件数	B 基数		C 売上金額 (百万円)	D 海外向金額 (百万円)
				(台)	(パレット)		
1	自動倉庫 (1～3)	M	29	26	6,594	907	0
	1. パレット用自動倉庫(ビル式)	U1	974	1,830	1,050,570	92,799	7,138
	2. パレット用自動倉庫(ユニット式)	U2	21	59	40,196	3,161	0
	3. パレット用自動倉庫(ユニット式)	C	183	966	165,496	49,003	139,133
		計	1,207	2,881	1,262,856	145,870	146,271
2	台車系 (4～6)	M	67	89		1,012	4
	4. 天井走行台車	U1	2,109	1,808		44,240	17,570
	5. 有軌道台車システム	U2	31	25		693	107
	6. 無軌道台車システム	C	366	13,622		151,101	140,396
		計	2,573	15,544		197,046	158,078
3	コンベヤ系 (8～10)	M	2,040			21,933	135
	8. パレット搬送用コンベヤ	U1	31,869			104,965	7,465
	9. ケース搬送用コンベヤ	U2	1,401			4,229	9
	10. ハンガー式コンベヤ	C	319			17,022	12,053
		計	35,629			148,150	19,662
4	仕分機 (7)	M	256	172		634	2
	7. 仕分機	U1	4,208	2,660		15,412	180
		U2	68	62		397	1
		C	20	27		17	1
		計	4,552	2,921		16,461	184
5	ピッキング系 (11～12)	M	574	0		821	585
	11. デジタルピッキング表示器	U1	4,774	131		12,141	1,348
	12. ピッキング台車	U2	0	0		0	0
		C	0	0		0	0
		計	5,348	131		12,962	1,933
6	回転棚 (13～14)	M	12	4		12	0
	13. 回転棚 (垂直式)	U1	548	196		2,188	9
	14. 回転棚 (水平式)	U2	0	0		0	0
		C	13	0		19	0
		計	573	200		2,219	9
7	移動棚 (15～16)	M	603	26		652	1,597
	15. 移動棚 (電動式)	U1	2,337	1,129		16,817	4
	16. 移動棚 (手動式)	U2	3	85		357	0
		C	0	0		0	0
		計	2,943	1,240		17,826	1,601
8	棚 (17～19)	M	4,051			2,109	802
	17. 重量棚	U1	68,364			26,828	0
	18. 中重量棚	U2	74			81	0
	19. 流動棚	C	0			0	0
		計	72,489			29,019	802
9	パレタイザ/デパレタイザ(20)	M	12	27		1,059	0
	20. パレタイザ/デパレタイザ	U1	194	719		18,006	2,191
		U2	1	4		111	0
		C	0	0		0	0
		計	207	750		19,176	2,191
10	垂直搬送機 (21～22)	M	95	226		2,210	243
	21. パレット搬送用垂直搬送機	U1	326	332		8,882	753
	22. ケース・ピース搬送用垂直搬送機	U2	232	315		7,806	5
		C	18	81		2,271	1,484
		計	671	954		21,169	2,485
11	コンピュータ (23～25)	M	48			1,625	0
	23. コンピュータ (ハード)	U1	2,123			36,878	1,287
	24. コンピュータ (ソフト)	U2	61			1,016	0
	25. WMS	C	286			13,431	10,786
		計	2,518			52,897	12,073
12	その他 (26)	M	29			985	37
	26. その他	U1	10,395			18,350	4,198
		U2	85			190	7
		C	0			8,388	7,250
		計	10,509			27,913	11,491
13	合計 (1～26)	M	139,219	570		33,960	3,405
		U1	128,221	8,805		397,505	45,447
		U2	1,977	550		18,042	129
		C	1,205	14,696		241,252	210,602
		計	270,621	24,621		690,758	259,583

物流システム機器生産出荷統計表 総売上金額の推移

設 備 機 器 名 () は集計対象機器 (小分類) の番号		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
自動倉庫 (1~3)	M	4,194	4,314	12,965	3,487	907
	C	27,250	33,841	38,206	38,493	49,003
	U1+U2+C	118,003	139,134	132,000	147,098	145,870
台車系 (4~6)	M	469	380	693	292	1,012
	C	84,328	90,858	140,446	153,666	151,101
	U1+U2+C	115,764	113,738	165,937	182,039	197,046
コンベヤ系 (8~10)	M	9,173	11,134	22,890	11,910	21,933
	C	9,424	13,869	13,936	13,818	17,022
	U1+U2+C	139,853	161,124	146,763	144,746	148,150
仕分機 (7)	M	4,044	4,968	9,197	2,418	634
	C	266	753	320	91	17
	U1+U2+C	18,968	30,290	19,820	15,761	16,461
ピッキング系 (11,12)	M	754	522	1,824	1,088	821
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	9,684	9,573	9,893	11,400	12,962
回転棚 (13,14)	M	91	297	219	144	12
	C	0	0	0	0	19
	U1+U2+C	2,626	3,286	2,742	3,380	2,219
移動棚 (15,16)	M	2,526	3,016	2,931	2,784	652
	C	0	0	27	28	0
	U1+U2+C	12,802	16,047	16,475	16,822	17,826
棚 (17~19)	M	3,262	4,530	3,427	3,737	2,109
	C	0	0	0	2	0
	U1+U2+C	31,954	33,628	32,677	33,307	29,019
パレタイザ/デパレタイザ (20)	M	1,018	384	1,369	758	1,059
	C	965	211	60	0	0
	U1+U2+C	15,312	11,471	8,534	11,998	19,176
垂直搬送機 (21,22)	M	2,193	2,054	2,597	3,162	2,210
	C	1,358	1,011	979	1,494	2,271
	U1+U2+C	12,585	14,410	17,118	13,725	21,169
コンピュータ (23~25)	M	215	554	3,682	327	1,625
	C	8,074	11,127	12,773	13,478	13,431
	U1+U2+C	38,417	43,481	45,581	54,083	52,897
その他 (26)	M	192	221	95	965	985
	C	8,451	8,886	9,206	9,285	8,388
	U1+U2+C	23,333	37,733	35,491	26,494	27,913
合計 (1~26)	M	28,132	32,374	61,889	30,872	33,960
	C	140,115	160,556	215,952	230,355	241,252
	U1+U2+C	539,301	613,916	633,031	665,033	690,707
※ フォークリフト		233,618	243,671	205,857	231,917	251,595
※ パレット		165,976	187,517	180,947	198,640	184,147

M：同業他社向けに販売したもの
U1：エンドユーザー、商社などに販売したもの
U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社に販売したもの
C：クリーンルーム向けに販売したもの